

第III章 公共交通の課題

1. 現況データからみた課題

① 町域縁辺に交通不便地域が広がっている。

- ・鉄道サービス圏域を駅から1km圏、バスサービス圏域をバス停から1km圏と捉えた場合、交通不便地域は、西部の山間部と南東部の地域が抽出される。この交通不便地域内に居住する人口は、総人口の約25%（8,784人／35,774人：H22）を占めている。
- ・一般的には、バスサービス圏域はバス停から300m圏として捉えられており、改めて交通不便地域をみると、町域全体に広く交通不便地域が広がり、交通不便地域内に居住する人口も、総人口の約34%（12,215人／35,774人：H22）にまで上がる。

② 高齢化の急速な進展に伴い、交通弱者の増加が懸念される。

- ・平成12年から24年までの12年間で本町では65歳以上人口の割合（高齢化率）は17.3%から24.7%と拡大している。なお、この間埼玉県の高齢化率は12.1%から20.6%であり、本町は県内でも高齢化が進んでいる。
- ・本町では、自分で乗用車を運転する高齢者が多いが、公共交通が無いためにやむを得ない場合もあり、身体的な不安からも公共交通への期待は高い、

③ 山間部地域の公共交通サービスが空洞化している。

- ・本町の面積は広大で、町域の約25%を山林が占めている。特に、本町南側に大きく山間部が広がっており、集落が点在している。
- ・山間部では傾斜が大きいいため、自転車での移動も厳しいため、自動車が無いと生活が困難な状況になっている。
- ・こうした地域では、高齢者等の交通弱者だけでなく、一般住民にも公共交通の必要があるものと考えられるが、道路状況等もあり公共交通サービスが行き届いていない。

④ 鉄道運行のサービス水準が低い。

- ・本町には南北方向を縦貫する東武東上線、JR八高線、東西方向を横断する秩父鉄道の3路線、駅は8駅あり、寄居駅が3路線の結節点となっている。
- ・しかし、各鉄道路線は単線であり、このため運行本数も限られたものとなっている。それが、鉄道利用の低下に繋がっている。（寄居駅、用土駅、鉢形駅、男衾駅、波久礼駅の5駅で減少）
- ・本町では、沿線自治体との連携で期成同盟会を設置し、鉄道の複線化に向けた活動が続けられている。

⑤ 路線バスのサービスが低密度で、運行情報が不足している。

- ・本町には、県北都市間路線代替バス（深谷駅・寄居車庫線、本庄駅南口・寄居車庫線）、東秩父村営バス（寄居線、川博線）の4路線が運行している。
- ・これらの路線は南北方向のみであり、東西方向への路線は確保されていない。
- ・また、運行頻度は極めて低く、1日4～8本の運行である。
- ・こうしたこともあり、路線バスがどこを運行しているかわからないだけでなく、路線バスの存在すら把握していない町民もみられる。

⑥ 路線バス相互の乗り換え利便性が悪い。

- ・路線バスは県北都市間路線代替バス（本庄駅南口・寄居車庫線、深谷駅・寄居車庫線）、東秩父村営バス（寄居線、川博線）がそれぞれの沿線地域と寄居中心市街地を結んでいるが、路線相互の乗換等の利便性が良いとは言えない。
- ・例えば、朝、埼玉よりい病院へ東秩父村営バス寄居線から本庄駅南口・寄居車庫線へ乗り換えて行く場合、中心市街地で40分近く待ち時間があり、利用できる状況にはない。

⑦ 自動車交通へ過度に依存した交通環境である。

- ・本町における移動手段では、自動車が2／3を占めている。（発生交通：66.7%、集中交通66.6% H20 東京都市圏パーソナルトリップ調査）
- ・公共交通サービスの低さが自動車交通への過度な依存に繋がっており、埼玉県内でもトップクラスの自動車利用率となっている。

⑧ エコタウンの実現に向けた交通環境の改善が求められている。

- ・本町では、第5次寄居町総合振興計画後期基本計画において、重点的な取り組みテーマの1つとして「より・Eエコタウン」を位置づけている。
- ・エコタウンの構築に向け、エネルギーのスマートグリッドやエコ通貨等の取り組みを目指しているが、交通分野においても、「快適なエコライフスタイル」の一環として環境にやさしい取り組みを行っていくことが求められている。

2. 住民が抱える課題

アンケート調査により日常生活における移動に関する住民の抱える課題を整理した。

①路線バスの利便性が低い。

- ・現状の路線バスの利用率が1%程度に過ぎない。その背景としてバスを利用できる環境にある人（最寄りのバス停がある人の割合）は17%程度である。
- ・また、バス停まで20分以内である人が、バスを利用できる環境にあると感じており、実際は身近にバスを利用できる環境にないと感じている人が多い。こうした回答は、多くは高齢の方であり、よりきめ細かなサービスが求められている。

②鉄道運行サービスが不足している。

- ・鉄道サービスは、ほとんど利用しない人が3/4を占めている。
- ・町内で最も利用が多い駅は、寄居駅で次いで男衾駅であるが、利用者数は少ない。
- ・これは、運行本数が少ないこと、駅までの交通手段がないことに起因しており、運行サービスの強化により、鉄道の利便性向上を図る必要が生じている。

③高齢者の移動特性に応じた交通サービスが無い。

- ・公共交通を利用して行きたい所は、病院や商業施設が特に高齢者65歳以上の町民に多く、安心して利用できる移動手段が求められている。
- ・現状では、自ら運転して自動車で移動するが多いが、近い将来的には自動車を運転することそのものに不安を感じている人は多い。
- ・しかし、現実的には、一人で利用できる公共交通手段が提供されていないことから、自ら運転して自動車で移動せざるを得ない状況が続いているものと推察される。